

西表島ごみについて考える

島嶼文化教育 与那嶺輔

1) 西表島のごみの捨て方、捨てる場所について。

ゴミ捨て場の現状について

ごみ焼却施設がない西表島は各地区ごとに穴を掘って、そこにゴミを捨てているのが現状である。また、ほっとくとゴミ捨て場が一杯になるので、定期的に野焼きをして処分している。最近では野焼きによるダイオキシンの発生によって周辺環境への影響が心配される。

上原のゴミ置き場の現状

上原のゴミ置き場は上原、中野、浦内、の三つの集落が共同で使用していて管理は一ヶ月交代で行っている。上原のゴミ置き場では野焼きは禁止されており、西表島にゴミ処理施設が整備されるまでのつなぎとして安全を考え、約一ヶ月に一回、重機を使用して埋めている。しかし、中には火を放つ人もいて困っている。分別状況は、はっきり言ってめちゃくちゃでリサイクルするはずの缶やペットボトル、捨ててはいけないはずの生ゴミなどが一緒に捨てられている。上原のごみ置き場は、周辺の道が区画整理で整備されたことによってゴミの量が急激に増え始めた。車で簡単にゴミ置き場まで入れるようになったため多くのゴミが一度に捨てられるようになったからだ。三、四年前まで、下がみえないほど深い谷であったが、今はごみで埋まっている。上原のゴミ置き場の下には小さな池があるが増水するとあふれ出し、ウダラ川をへて最終的には浦内川にまで流れでている。

この様なおみ捨て場は西表島の例外なく各地区にあり、川近く、海の近く、谷など、水に関係する場所にあることが共通している。これらのごみ捨て場中にはかなり危険な状態の所もあり、早急な対策が必要である。

「一つ驚くことに家庭ごみが各字ごとに野焼きされ、谷間や海辺に残灰が流出していることである。町は資源ごみ分別を実施し始めてはいるが、問題は資源不可能な塩化ビニールや水銀灯、バッテリーなど、危険ごみが一緒に野焼きされていることである。」

<2002年4月10日> 朝刊 1版 オピニオン5面(水曜日)

[論壇]/[寄稿]/渡久地澄子西表島の海、汚染の危機 沖縄タイムス

西表島におけるごみ処理の現状を住民はどう思っているのか。

野焼きを行うことでダイオキシンやその他有害物質が発生することに危機感を持ち様々な取り組みをしている人もいる。しかし、一方では、分別もせず野焼きをするなどして何も考えないでごみを捨てる人もいるなど、住民によってごみに対する考え方は様々で、各地区によって考え方や取り組み方も大きく異なっているのが現状である。また、あるスーパーでエコバックを200枚ほど無料配布したが、誰一人として利用した人はいなかったそうだ。

「竹富町ゴミについて考える会」について

1991年に竹富町婦人連合会リーダー研修会の会合で、混合ごみであふれたごみ捨て場の現状を憂慮するこえが相次いだことがもとで発足。月に一回、竹富町役場に集まって、ごみ捨て場の現状報告や意見交換を繰り返す。これまでに、瓶とアルミ缶の回収を業者に依頼し各島を巡回してもらうことや、町に対し缶瓶類を保管するストックヤードの整備を要請するなど、後手に回りがちな行政にごみ問題への取り組みを促す先導役を果たした。その他にイベントや研修会でごみ捨て場のパネルやリサイクル商品の展示、廃油石けんづくりの講習、また、月に一回身近なごみ問題を考える広報誌を発行するなど積極的にごみ問題に取り組んでいた。しかし、何年か前に解散してしまったようだ。直接話を聞いたわけではないのでさだかではないが有る程度の成果をあげたので解散したらしい。

「竹富町ゴミについて考える会」が解散した理由か？

結局行政がちっとも本腰を入れて取り組まないで業者の努力と住民の意識に頼るしかなくなっているのが現実らしい。「こんなに進展がないのなら一度会を解散して考え直した方がいい」なまじ行政が「ゴミを考える会」にお金を出したため、やめるにやめられないのが現状。「組織が空洞化してしまうならはじめから手弁当でやれば良かったんだけど、島が散らばって人が集まるのにお金と時間がかかって大変。」「町役場が石垣市にあって行政側がごみの現状について知らないから問題意識が低い。」

1999年4月4日 朝刊 市町村19面(日曜日)

竹富町ゴミを考える会 廃棄物減量を率先実行 住民・行政に再資源化提案

離島のゴミ問題より

(<http://www.ecolink.sf21npo.gr.jp/users/meri/gomi.htm>)

現在、竹富町では西表島を皮切りに五ヶ所の島にゴミ処理施設を整備する計画がある。また、RDF、ゴミ固形燃料化の施設建設計画や、西表島には焼却処分できないプラスチックなどのごみを処理するための最終処分場を整備する案も内部で検討されているとのことだ。しかし、竹富町の予算ではかなり厳しい計画である。（平成13年 第6回竹富町議会（六月定例会））

西表島でのゴミ焼却施設の整備が決まったことをどうおもっているのか。また、最終処分場の建設予定があるのだがそれについてもどうおもっているのか。

西表島全体の意思は建設が必要だと一致しているが、建設場所の問題がのこっている。処理施設建設反対の意見はないがこの問題に対して住民の関心が薄いのではとの声もある。また、建設は必要だが、建設予定施設のごみ処理方法が本当に適切かは疑問があるとのこえもあった。

1999年4月4日> 朝刊 1版 市町村 19面(日曜日)

[追跡・沖縄<ごみ事情>(13)/広域離島の悩み/処理施設財政に負担/秘境の島に露天捨て場/野焼き、有害物質を懸念 沖縄タイムス

その他

一時、西表島にはPCB（ポリ塩化ビフェニール）の処理施設の建設が計画されていることが明らかになり、波紋を広げていたが竹富町議会で否決された。

「PCB処理施設につきましては、これは先般も申し上げましたように、やはり極めて毒性の高い、危険性の高いというふうな中で、しかも国有林の中で、国有地、国立公園の中でやること自体、極めて問題があることは十分承知しておりまして、このことにつきましてもやはりわが竹富町でこういうプラントが設置されることは好ましくないということを断言しながら、今後あり得ないということを申し述べたいと思います。」

（平成13年 第3回竹富町議会（3月定例会）町長発言より）

ゴミの捨て方について

- ・ 分別について

環境整備課のホームページをみるかぎりでは西表島の分別回収（空き瓶、空き缶以外）は他市町村に比べて全く進んでないのだが、容器包装リサイクル法の施行によって、容器包装類（ペットボトル、トレイ、牛乳パックなど）の回収はどうなっているのだろうか。

西表では瓶類、缶（スチール、アルミ）、ペットボトル、食品トレイ、牛乳パックの分別回収が行われている。しかし、行政が行っているのは缶類だけのようで残りは業者や住民の自主性に頼っているのが現状である。空き缶は「カンスケ号」という空き缶プレス車が竹富町の各島を巡回してプレスしている。

- ・ ゴミの回収について

前回の調査報告から各自で決められたゴミ捨て場に持っていくということがわかる。ごみ処理施設の予定はあるがまだ建設されていないので回収システムについては変わっていないと思われる。

まだ、前の調査の頃と同じように住民、自らがごみ捨て場に持っていくこととなっている。ごみ処理施設の建設とごみ回収車による回収はワンセットだと考える人もいる。

生ゴミの処理の仕方について

- ・ 生ゴミの処理方法は行政の方では畑などにうめるなどして、各自で処理するよう呼びかけているが、ゴミ捨て場に投棄しているのが現状であり、現在の段階では生ゴミを処理するシステムはない。

生ゴミ投棄による問題

生ゴミを投棄すると、それをエサとする野良ネコが増加し、それにより西表島の生態系への影響が懸念される。また、イリオモテヤマネコへネコエイズが感染する恐れもある。

各ゴミ捨て場を見て回ったが、ネコやカラスが多いのはしっていたので何とも思わなかったが、船浦のゴミ捨て場では、天然記念物のセマルハコガメが

生ゴミをあさっているのにはちょっと驚いた。

対策

集落に生ゴミステーションを設置して、集落、民宿等からでるごみを集めて堆肥化することはできないか調査中である。

第3回竹富町議会（三月定例会）三月二十一日 五号より

生ゴミ 西表 により検索

(<http://www.town.taketomi.okinawa.jp/gikai/discuss/default.htm>)

1999年4月4日> 朝刊 1版 市町村19面(日曜日)

[追跡・沖縄<ごみ事情>(13)/広域離島の悩み/処理施設財政に負担/秘境の島に露天捨て場/野焼き、有害物質を懸念 沖縄タイムス

生ごみの処理について

昔、町の方が希望者に対してコンポスターを配布して、各家庭で生ゴミを処理させようと試みたが、犬が掘り返したり、カラスが突っついたり、ウジが湧いて臭くなる等の理由や、堆肥になるまでに以外と時間がかかる等の理由から使われなくなった。最近、国の補助で生ごみ処理機を試験的に置き、生ごみ処理を進めたが、地元（西表島）の食文化なども考えずに機械だけを設置したため、使い勝手が悪いし、処理能力が低いなどの不満がある。その他の生ごみ処理の方法については、個人で学校給食やレストランなどの残り物を回収して、処理機で堆肥化している人や、飼っているアヒルの餌にしている学校などがある。また、レストランの中には独自で生ごみ処理機を置いて処理をしているところもある。

2) 廃車の問題。

・西表島では車を廃棄するのにどうしているのか、前の調査では島外の業者が工事で使用した車を放置していることを主にとりあげていたが、住民の使った車が廃車、放置されることはないのか？

むしろ住民の廃車放置のほうが多いのではないかと思う。その理由は1995年から98年の間に1336台回収されているが、千台を超える数の廃車が業者だけで出せるとは思えないからである。

廃車の回収の仕方

廃車は何処へ行くのか？

廃車の処理の仕方は？

西表島は竹富町最大の島であり、住民が島内を移動するのに車は必要であると考えられる。役目を終えた車の処理回収の方法はどうなっているのだろうか。

今後の対策は？

「放置防止策を進め、また処理に要する経費負担を排出者に負担義務とする条例を早期に整備します。」平成13年第3回竹富町議会（3月定例会）より輸送費の問題はどうするのか、家電のように役場が援助（金銭面、システム面）をするのか。

住民の廃車、放置自動車についての意識について。輸送費の負担による放置はないか。

車だけでなく原付や自動二輪はどうなのだろうか。車よりこっちの方が捨て（放置）やすいのではないだろうか、また、廃タイヤ、その他の消耗品（車等）などはどう処理しているのだろうか。

廃車等の現状について

干立に廃車をまとめておく場所があったが県と町の補助で島の外へ搬出。何年かに一回、竹富町の島々をローテーションで回収することが行われている。個人では車の処理費用の負担はしていない。処理費用は野山への放置などもあるようだ。その他の車に関する廃品（タイヤ、バッテリー）に関しては、回収処理してくれる工場もあるが、処理費用は自己負担となっている。しかし、投棄も行われているのが現状である。

これからの問題

西表島にレンタサイクルやレンタルバイクなどが、よく走っているのをみかけるが、これらが使えなくなったとき、どう処理されるかが問題になるのではないだろうか。

<2000年12月21日> 朝刊 1版 社会27面(木曜日)

放置車両なくせ/対策に政府本腰/大蔵原案内示離島には朗報 沖縄タイムスより

<1999年4月4日> 朝刊 1版 市町村19面(日曜日)

[追跡・沖縄ごみ事情](13)/広域離島の悩み/処理施設財政に負担/秘境の島に露天捨て場/野焼き、有害物質を懸念 沖縄タイムス

3) リサイクルについて。

ペットボトルについて

平成九年4月の容器包装リサイクル法施行後、西表島のペットボトルやトレイなどはどのように回収されているのだろうか。

- ・ ペットボトルの行方

西表島では、琉球ジャスコと海運3社（八重山観光フェリー、八重山港運、琉球海運）の協力で仲間港と上原港にコンテナを置いて牛乳パック、トレイなどと共に回収している。本島に輸送後、本島のリサイクルベースにのせている。

西表島の何処で集めているのだろうか。

ペットボトルの処理については行政の方からではなく、住民の方から分別して回収するという動きがあった。費用は町が負担していて、定期的に石垣から那覇へ送っている。主にスーパーや商店などの協力を得て回収を行っている。また、白浜では住民が分別したペットボトルを青年会がつぶして回収にまわしている。

本島のリサイクルベース

「与那原、佐敷、南風原の3町は読谷の沖縄リサイクルセンターによって圧縮、保管される。これら以外の市町村は直接日本通運を通して福岡県北九州市の西日本ペットボトルリサイクルへ運搬される。」（沖縄県環境整備課ホームページより）

- ・ ペットボトルのその後

いくつかの行程をへてペット樹脂に加工される。その後、様々な製品にリサイクルされている。

西表島の住民はリサイクルについてどのようにおもっているのだろうか。

リサイクルに対する意識や取り組み等。

住民のリサイクルに対しての意識はだいが高まっているようだが、まだ分別しないで捨てる人などもあるので、これからさらに力を入れて取り組む必要がある。

沖縄県環境整備課 容器包装リサイクル法

（<http://www.pref.okinawa.jp/kankyoseibi/other/youkihousou.htm>）

西日本ペットボトルリサイクル株式会社

（<http://www.mitsui.co.jp/pfiecobz/072/npet/>）

第3回竹富町議会（三月定例会）三月二十一日 五号より

ペットボトルで検索

（<http://www.town.taketomi.okinawa.jp/gikai/discuss/default.htm>）

<2001年1月25日> 朝刊 1版 社会25面(木曜日)

琉球ジャスコと海運3社がスクラム/資源ごみおまかせ/無償で那覇に輸送/竹富町西表島（沖縄タイムス）より

家電について

2001年4月の家電リサイクル法の施行により、西表島の家電の処理方法はどうか？

当初、竹富町では石垣の販売店を通してリサイクルルートに乗せようと考えていたが、石垣の販売店の発表で収集運搬費用が6000円かかるということわかった。町民の負担になるので、急遽フェリー会社や船会社などと交渉して、各島から石垣島までのフェリー代金を住民に負担してもらい、石垣から本島までの輸送代は役場の方で負担することが決まった。（家電のリサイクル料金は全国一律の料金を負担する。）平成13年第6回竹富町議会（六月定例会）より

・行方

竹富町の各島々から石垣港のコンテナへ（町民の自己負担）、コンテナがいっぱいになると本島の指定引取り所へ輸送（町負担）

・その後

その後は、再商品化できる部分とできない部分にわけ、再商品化できる部分は新しい商品の一部や原材料などに加工したり、燃料などの熱源などになる。利用できない部分は、産業廃棄物として処理される。

家電リサイクル法が施行される前は、一般のゴミと共に野焼きをしていたが施行後はどう変わったのだろうか。また、リサイクル法施行後、本島などでも家電の投棄が目立っているが西表島の方ではどうなっているのだろうか？

昔は大型の家電製品は干立の廃車置き場に捨てられていて廃車の回収のついでに処分されていた。小型の家電製品は普通のゴミと一緒に燃やして処分していたようだ。

沖縄県環境整備課 家電リサイクル法より

(http://www.pref.okinawa.jp/kankyoseibi/other/kaden_rec.htm)

4) その他のゴミについて

乾電池について

・前回の調査では電池に水銀が使用されなくなったため一般の燃やしてはいけないごみとして捨てることができる。

現在は、西表島西部出張所に青いプラスチック製のドラム缶型の入れ物があり、それに入れて回収することになっている。

離島のゴミ問題より

(<http://www.ecolink.sf21npo.gr.jp/users/meri/gomi.htm>)

漂流ゴミについて

日本全国の海岸で中国、台湾、韓国など海外から流れてくる、ごみ(主にプラスチック容器、ビニール袋、電球)が問題となっている。

台湾や中国に近い西表島での漂流ゴミの現状と対策、処理の方法などについて？

<1998年2月4日> 夕刊 1版 社会4面(水曜日)

漂流ゴミが国境越え汚染/大半は中国や台湾、韓国/漂着多い八重山諸島/防衛大教授調査 沖縄タイムスより

漂流ゴミ

現状

一言で言うとすさまじい。海の近くの砂浜をみるとごみがそこそこ有るくらいの海岸だが、防潮林の「あだん」が生えている海岸から少し入ったところには地面が見えなくなるほど発泡スチロールが山となっている。ペットボトルやプラスチック容器、瓶、缶、漁具、電球、蛍光灯など、あげるときりがないほどの数と種類のごみが流れ着いている。変わったものではガソリントank(中味満杯)が漂着していた。中国、台湾、韓国、東南アジア諸国、その他など国籍も様々である。その他にレジンベレットというビニール袋などの原料となる小さなプラスチックの玉やプラスチックのかけらなどが流れ着いている。これらを、魚や鳥などがあやまって食べてしまい、直接、間接的に影響がでている。

対策

ボランティアで回収し、バーコードなどから国を割り出して、それを集計してごみを流した国にごみを流さないように要請する。

処理方法

発泡スチロールは溶かして再利用する。瓶は琉球ガラスへ、ペットボトルはきれいな物はリサイクルへ汚い物は産業廃棄物として処理する。その他のごみは産廃として処理する。

観光客の捨てるごみ（未調査）

西表島は持ち前の自然により年々観光客が増えており、今では年間25万人近くも観光客が訪れる島となっている。しかし、西表の島民2000人がだすごみすら満足に処理する能力（施設）がない島に、25万もの人がだすごみは深刻な問題となっている。

特に民宿などの宿泊施設が多い西表島西部においては大きな問題であると思われる。ここ最近では、エコツーリズムの広がりにより島に持ち込んだごみは持ち帰るという動きもあり、西表島のごみ問題を解決する一つの手段となるのではなかろうか。

キャンプ場、民宿などにおける、生ごみ、ペットボトルなどの分別回収は何処まで進んでいるのか。また、観光客は西表島のごみの現状は知っているのか。

竹富町役場ホームページ観光情報 によると西表島西部域民宿等の宿泊施設は38個所有。ちなみに東部は11個所である。

（<http://www.town.taketomi.okinawa.jp/view/gesthouse1.htm>）

西表島プロジェクト

キャンプ場のごみ問題 旅行が西表島にもたらす環境負荷 より

（<http://isweb42.infoseek.co.jp/travel/na-tour/IRIOMOTE-TOP.htm>）

竹富町概要平成11年度版より 観光入域者数